

## (財) ホソカワ粉体工学振興財団の活動概要

当法人の設立の目的は「粉体工学の基礎研究及びそれに携わる研究者の国際交流に対する助成等を通じて我が国の学術研究の発展に寄与すること」であります。この目的を達成するために次の2つ事業を行っております。以下には平成19年度の活動概要について記します。

(1) 助成事業

(2) 財団自主事業

平成19年度、(1)の助成事業に対して3490万円、(2)の財団自主事業に対して2,031万円、合計5521万円を支出しています。(1)の助成事業の内訳は以下の通りです。

1) 研究助成(配分額2,190万円)

申請件数137件中、23件に対し1件当たり100~120万円、総額2,190万円の助成を行いました。

2) KONA賞(配分額100万円)

2名の推薦者から東北大学教授・斎藤文良夫氏の推薦があり、同氏に対し賞状および副賞100万円を贈呈しました。

3) 若手研究者に対する褒章(ホソカワ研究奨励賞)(配分額150万円)

11名の候補者の推薦の中から3名に対して、1名当たり50万円、総額150万円を贈呈しました。

4) シンポジウム開催援助(配分額150万円)

5件の申請のうち、「第2回サイアロン及び非酸化セラミックス国際会議」(申請者:横浜国立大学大学院環境情報研究院特任教授 米屋勝利一氏)に対して100万円、「第5回環境汚染におけるコロイド界面現象と界面科学の取組み」(申請者:東京理科大学薬学部教授 大島広行氏)に対して50万円の援助を行いました。

5) 研究者育成のための助成(配分額300万円)

21名の候補者の推薦の中から10名に対して、1名当たり30万円、総額300万円の助成を行いました。

6) 特別枠による助成(配分額300万円)

3件の研究助成の申請があり、この3件に対して、1件当たり100万円、総額300万円の助成を行いました。

7) 拡大研究助成(配分額500万円)

助成事業拡大基金の趣旨に合致したプロジェクト、「東北大学における研究環境整備」(研究代表者:東北大学教授 井上明久氏)に対し500万円の研究助成を行いました。

(2)の財団自主事業の内訳は以下のとおりです。

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催(総額約437万円)

「ナノパーティクルテクノロジー:新市場開拓と参入」をテーマとした第41回粉体工学に関する講演討論会を平成19年9月11日(火)に千里阪急ホテルで開催しました。講演件数は6件(1件のKONA賞受賞講演を含む)、参加者数は167名(内訳:企業120名、大学・研究機関31名、ホソカワミクロン関係者16名)で盛会裏に終了しました。参加者の約半数から得られたアンケート結果によると、内容に満足との回答が9割ありましたが、分野をもっと絞ってはどうかという意見や、有機粒子などを扱う要望もでていました。なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会(会長 増田弘昭 京都大学名誉教授)に委託しています。

2) 国際学術誌「KONA」の発行(総額約1,146万円)

KONA誌No.25(2007)を平成18年12月25日に発行しました。本誌は、アジア、アメリカ、ヨーロッパの3ブロックの編集委員会で編集し、粉体工学に関する優れた研究論文、レビューを世界から集めて毎年発行し、粉体工学関係研究者、研究機関、図書館等に無償で配布しています。なお、アジアブロックの編集は粉体技術談話会に委託しています。

No.25は発行部数1,000、総ページ数303、掲載論文数22編(アジアブロック6編、アメリカブロック7編、ヨー

ロッパブロック 9 編) でした。掲載記事の内訳はReview paper 7 編, Original paper 9 編, 翻訳論文 6 編, Information article 2 編, 粉体工学に関する 3 種類の日本語論文集の目次からなります。アメリカ, ヨーロッパそれぞれのブロックへ各150部, アジアへ45部, 国内へは約300部送付しました。なお, No.20以降は, 全文を電子ジャーナル化し, ホームページに掲載しています。

昨年に引き続きISI Web of Science 収録誌への登録を目指してトムソンサイエンティフィックに3冊目を送付しました。3冊目が提出されたことにより, ISIデータベース収録誌として採用するか否かの判定がなされます。平成20年2月には辻常務理事がフィラデルフィアにあるトムソンサイエンティフィック社に出向き, KONA誌の特色などを直接説明しました。結果は2008年6月頃になる予定です。この原稿を書いている2000年7月現在, まだ結果は届いていません。申請のある論文集の中で採択されるのは約10%とかなり低く, 予断を許さない状況です。

「KONA」はその正式名称をNo.26 (2009) より「KONA Powder and Particle Journal」とすることになりました。

### 3) ナノパーティクルテクノロジーハンドブックの出版 (総額約448万円)

ナノパーティクルテクノロジーハンドブックを平成19年10月にエルゼビア社より出版しました。日刊工業新聞社から出版されたハンドブックの出版から1年半で英語版が完成したことになります。多くの著者による共同執筆である点を考えると異例の早さで出版されたといえます。